



令和5年度 会長賞全国1位



全国
1位

“スペシャル・ブルースカイ・レディー”
22MB06901 BCW ♀
那須保信鳩舎作出 ミヤモトレーシング委託

23年春茨城連盟 Rg407K 4,501羽中総合15位 0.00333
茨城連盟地区N600K 3,629羽中総合 3位 0.00081

合計入賞率 **0.00414**

生まれ

- ・生年月日 …… 22年3月10日
- ・順番 …… 1番仔

鳩体

- ・大きさ …… 大
- ・体型 …… 短い
- ・腰の厚み …… 普通
- ・筋肉 …… 普通
- ・ベスト時の重さ …… 普通
- ・バランス …… 中間
- ・性格 …… その他

作出の意図

- ・距離適性 …… 400K~800K
- ・展開 …… 分速1200~1300m台
- ・タイプ …… 安定型

全兄 / 21年東京西連盟地区N600K総合7位
21年ミヤモトレーシングファイナル136K優勝
全姉 / 21年東京ブロック連盟G P800K連盟15位

- B16-6236165 BCP アンドレ・ロードホフ作翔 入賞多数
- B10-6357319 ファンダイク作
 - “ディカプリオ” B05-6045015 BC
 - ヘルマンス&クーテルス作翔 キエプラン優勝3回他
 - “オリンピアード003”の直仔×下記 “ランボー”の曾孫
 - B02-6256226 D&L ファンダイク作
 - “カニバル”(ファンダイクの源鳩 “ランボー”直仔)×
(エンゲルスの源鳩 “デン31”× “デン31”の孫)
- B10-6100399 アンドレ・ロードホフ作
- B01-6153949 エンゲルス作 上記 “デン31”の孫
- B03-6355571
- スーパーカップル [B90-6471217 (ホフケンス系) × B89-6366758 (ホフケンス系・ヤンセン系)] の孫
- 曾孫 / 21年日本エースピジョン賞全国8位
- 全姉妹の曾孫 / 22年日本エースピジョン賞全国2位
- 17MB09020 B 那須保信作翔 19年JC2,081羽中総合581位
- 10MB06798 BCW 公塚園夫作
 - “マリールイズ”(95年オールジャン最高分速)孫×孫
 - “パワーマン”の孫 “クリントン”、“マキシミアン”、“ボードワン”各曾孫
- B11-5030950 B ステファン・ステンベルゲン作
- 娘 / 400K優勝
 - “デン・ディッケン” B09-5181897 B
 - [B85-6101923 (優勝15回) × B85-6362349 (エンゲルス系)] の孫×孫
 - “ビューティースミス” B06-2233534
 - “ナショナル”(87年プールジュン優勝)の近親

(茨城連盟・茨城東連合会)



委託鳩舎から「会長賞全国1位」が誕生——！

距離エースピジョン(以下AP)の最高賞だ。令和5年度の「会長賞全国1位」に選ばれたのは、ミヤモとでの申請だったが、わずか1年目にして委託鳩初の「全国1位」が誕生したというわけだ。都内の羽の本賞全国1位を輩出したファンダイクの誇る中距離ナショナルAP「カニバル」の因子が搭載。ンの認定必至の成績を収めている。今回も然るべきレーサーが然るべきタイトルを得たようだ。

門戸開放1年目で 個人委託鳩舎が受賞！

78年、笹川良一氏の当協会の会長就任を機に設立された「笹川名鳩賞」。92年、同氏の勇退をもって「会長賞」と名称が変わり、現在に至る。平成25年(※13年)に設立された「全国1位」は、唯一「中距離レーサーの日本一」を決める賞だ。ゆえに権威は当然のこととして、人気と注目度もまた非常に高い。

会長賞はこれまで個人の合同委託鳩舎について授賞対象外としてきた。ところが令和5年度から連盟が成績を認める場合に限り、申請が可能に。そして今年全国1位を射止めたのは、なんと個人委託鳩舎——「ミヤモトレーシング(茨城東)」だった。「もし委託鳩舎でなければ全国トップレベル」と周囲から評される実力を門戸開放1年目にして示したといえよう。

全国1位に輝いた「22MB06901」は、Rgで総合15位、地区Nで総合3位を収め、入賞率「0.0414」で対象全55羽の受賞鳩の頂点に立った。しかも秋Rgで4%台をマークしており、シルバークセレントピジョンの認定資格を得た「中距離のスペシャリスト」である。

委託者であり作者は、**那須保**

使翔者・ミヤモトレーシング(茨城連盟・茨城東連合会)のプロフィール
 ■設立 3年 ■鳩舎規模 選手鳩40坪1000羽
 ■代表翔歴 22年春GP総合優勝、東日本CH総合5位(桜花賞総合優勝)、東日本稚内GN総合7位、秋Rg総合優勝、21年東日本CH総合6位、秋200K、300K各総合優勝



信鳩舎(西武蔵)だ。所属する連盟では最西の位置、かつ住宅街に鳩舎を構える現役のレースマンである。鳩レースの本場、ベルギーに足を運ぶほどの

「情熱家」で、所有する種鳩の多くが、ヨーロッパの最新銘血バード。「22MB06901」の場合、父親のロードホフ作と母方祖母のステンベルゲン作がまさに「それだ」。

このように銘血ばかりを集めながらも「鳩を見る目がない」と自己評価しており、ゆえに頼るのはデータ一択。カップルにつき生まれてきたトリ1羽1羽の入賞率を調査することで、種鳩の良い悪いを判断している。3〜4年間の猶予を設けつつも結果を残せなかった場合、いくら高額な輸入鳩だとしても戦力外にするとのことだ。

しかし「22MB06901」の両親は配合1年目からこの試験をクリア。ミヤモトレーシングでの優勝、また自鳩舎においても総合シングル鳩を誕生させるなど、むしろ「アタリ」である。ちなみに活躍鳩には共通点があるようで、いずれも刺しが入っていることだ。

父親はエンゲルスの源鳩「デン31」の重近親である一方、作者ロードホフのホフケンス系スーパーカップルにして、2年連続日本AP賞(21年、22年)を生み出した「B90-6471217×B89-6366758」、ヘレマンズ&クート

令和5年度 会長賞全国1位 使翔者・ミヤモトレーシング

新规程1年目で個人

Rgと地区Nの中距離2レースを対象とする「会長賞」。その頂点にあたる「全国1位」は、まさに中トレーシング(茨城東)の「22MB06901」である。本年度から個人の委託鳩舎も受賞可能となった住宅街でレース鳩の飼育を行っている那須保信鳩舎(西武蔵)の作出鳩で、この1羽にもこれまで5一方、鳩体も「THEスピードバード」にして、秋のRgでも5%内に入賞しシルバーエクセレントビジョ

ルスの基礎鳩「オリンピックアード003」といった世界的銘血まで脈を打っている。しかもこれまで多数の会長賞全国1位鳩を誕生させてきたファンダイクの「カニバール」の因子も搭載！ このK B D B中距離ナショナルAP(96年1位)による受賞はこれで5連続、かつ6羽目と圧倒的だ。

母親はベルギー、オランダの中距離N優勝鳩の塊で、とりわけ「マリールイズ」と「ナショナル」の血量が濃い。配合的にはアウトブリードという形となるが、突き詰めれば両親ともにエンゲルス系が絡んでいるようにもとられ、もしかしたらインブリード…か？

強い鳩作りの末に 生まれた会長賞全国1位

ともあれ前述の実績、そして筋骨隆々、かつ短いというスピードバードを象徴するようなフォームから「カニバール」の血による覚醒が大きいと判断できるものの、使翔者であるミヤモトレーシング代表の宮本義明氏の見解は異なる。彼自身、80年代後半に再開してから「ホフケンス系」で成果を残してきていることから、その飛び筋——ロードホフのスーパーカップル、あるいは師弟関係にあったということから「エンゲルス系」が反応したのでは

ないかという見立てだ。確かに前述の鳩体的特徴ともマッチしている。

「強い鳩は叩いて叩いて作るもの」という考えから、ミヤモトレーシングの運動量は年間を通して1日90分から2時間をベースとしており、しかもそれは強制ではなく「鳩なり」でを心掛けている。また目標に「全レース優勝」を掲げており、距離によって調整内容を変えることはほぼない上、内地の地区Nまでは基本的にレース後の休息はなし。「常にトップコンディション」を意識した環境は、レース鳩にとって極限あるいはそれに近いものだ。そのためであろう、設立わずか3年で総合優勝5回、関東三天長距離で3回ベストテン入りを果たしている。

一方、ミヤモトレーシング初の会長賞となる「22MB06901」は地区Nの結果で同賞が内定しながらも那須鳩舎の性能検定の基準

——海越えしなければ種鳩にしないということで次戦の白老GPにも参加。記録範囲の当日に帰らず、2人とも肝を冷やしたようだが、翌日に無事帰還…。

「私も過去に会長賞のトリを続投したことがありましたが、失ってしまいました。しかし那須さんのはきちんと帰ってきた。強い鳩」とは成績だけでなく、失踪しないという部分も含めてなので、このトリは私にとって理想的ですね。

作出者の那須鳩舎は、前述の環境から全国タイトルを無縁なもののだとあきらめていた。ゆえに今回の受賞は望外であり、また最高の喜びであったことは言うまでもない。住環境、高齢化によってフットの需要が高まっていく流れの中で、今受賞劇は委託者たちにとって大きな希望であり、また活力となりそうだ。

作出者のコメント

那須保信鳩舎
(東京西連盟・
西武蔵連合会)



私の作出・委託した鳩が「会長賞全国1位」を獲得したとのことで、これまで全国タイトルと無縁だったことから驚きしかありません。このような大賞を受賞できたのも個人委託鳩舎の受賞を可能に規程を変更して下さった協会執行部のみなさま、そしてミヤモトレーシングのおかげだと感謝しています。「会長賞」の可能性は聞いていましたが、「海越えしなければ種鳩にする意味なし」という私の考え、また全国を狙えるとは想像していなかったこともあってか、GPに参加させました。当日に帰らなかったもので、仕方ないとおきらめていましたが、宮本さんから地区Nを終えた時点で返却の話を受けていたので、素直に受け入れておけばと後悔「も」しましたね(笑)。翌日に帰還したことを聞き、ホッとしたのを憶えています。私は見る目がない分、データ重視で配合を選んできましたが、これまでの成果を残すことができ、自信につながりました。委託だけでなく、自鳩舎でも頑張りたいと思います。